

まいいた

平成30年度

10月号

平成30年9月28日

<http://www.educity.yokohama.jp/sch/es/maita/>

「できる」「わかる」「またやりたい」の授業づくりをめざして

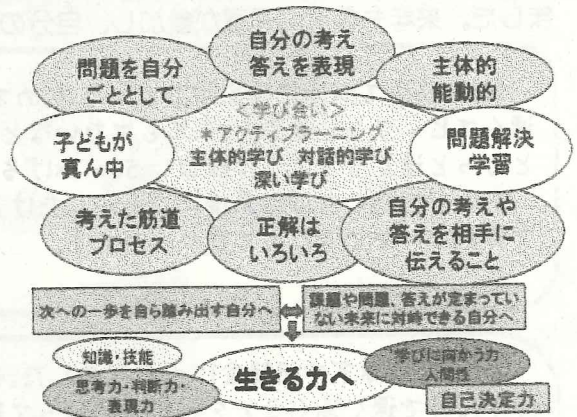
校長 太田 正寿

秋の風が心地よく感じるようになってきた今日この頃、皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、来週の10月5日をもちまして、前期の最終授業日となります。ここまで大きな事故等もなく、子どもたちが楽しく、安心して学校生活を過ごすことができたのも、保護者の皆様、地域の皆様のあたたかいご支援・ご協力があったのものと教職員一同感謝しております。

さて、平成30年4月に小学校6年生・中学3年生を対象に実施 **〈新学習指導要領・授業づくり・キーワード〉** された全国学力・学習状況調査の調査結果がまとまりました。

*結果・分析等につきましては本学校だよりに掲載しております。

今回の新しい学習指導要領で求められる「学力」とは、知識・技能の習得にとどまらず、学習意欲・思考力・判断力・表現力等までを含むものととらえ、「主体的・対話的で深い学び」を児童の理想の学習する姿としています。つまり、習得・活用・探究等の学習過程の中で、見方・考え方を働かせながら、共に学び合い、自分の考えを広めたり、深めたりすることのできる授業づくりに取り組むことが大切であると示されています。



本校も、「やる気いっぱい やさしいいっぱい 元気いっぱい 蒔田っ子」の学校教育目標の具現化に向け、「互いに認め合い、共に学ぶ子を目指して」という研究テーマを設定し、体育科を中心に授業研究に取り組んでいます。

蒔田の体育の授業は、「豊かなスポーツライフのファーストステップである。」という理念のもと、運動領域では、「運動との幸福な出会い」、保健領域では「自分の身体を見つめ、生命のすばらしさを発見する」を合言葉に研究を進め、「できる、わかる喜びを味わい、運動を楽しむ子、運動好きの子」を育てるために、以下の四つの視点を大切に授業づくりや研究を深めています。

- 「できた、わかった、やればできる」を体験するためのスモールステップによる段階的な指導
- 子どもたちが安心して学習に取り組むことができる、ユニバーサルデザイン化を図った学習環境
- 自分のめあてに向かって主体的に学ぶための、低・中・高の発達段階に応じた子ども自らが作る学習計画
- 自分事として問題と向き合い、自分や友達を大切にする気持ちを育てるための学習の総合化

蒔田の子どもたちが、自ら課題を見つけ、その解決のために進んで学習に取り組む姿、友達との豊かな関わり合いの中で、本校の課題である自尊感情を高めていく姿も、少しずつではありますが研究の成果として表れています。また、新学習指導要領が目指す、主体的・対話的で深い学びの授業像の具現化を、このように率先して取り組むことで、教師一人ひとりの授業力も体育を含め、全ての教科・領域において向上してきていると思います。

「信頼される学校とは？」とよく聞かれますが、私は信頼獲得の第一歩は、「授業」にあると考えています。教師がいかに児童・保護者のニーズに応える授業ができるかが、信頼される学校づくりの第一のポイントだと思っています。そのために、私たち教職員は授業の指導技術をしっかりと磨き、互いに切磋琢磨し、学校一丸となって授業研究の推進を今後も行っていきますので、是非ご期待ください。

また、来週、子どもたち一人ひとりに「あゆみ」をお配りいたします。前期に子どもたちががんばったこと、成果をあげたことなどを中心に書かれています。是非、ご家族でお読みいただき、がんばったことは認め、後期に向けての新たな目標を掲げることのできるお話し合いをしていただけたら幸いです。

後期も、子どもたちが「できる」「わかる」「またやりたい」と日々思える授業づくりをめざしてがんばってまいります。